

日本国内で磁器生産が始まったのは、今からおよそ400年前、朝鮮半島より渡来した陶工・李参平が肥前現在の佐賀県^{シマ}の地で初めてその焼成に成功した元和2(1616)とされています。それを記念し、根津美術館では「伊万里焼」として知られる肥前磁器の歴史を振り返る展覧会を開催いたします。

白く、硬く、清潔な磁器は長らく中国が生産の中心地で、世界中が憧れたやきものでした。そのような中、中国に次いで世界的産地となったのが肥前でした。肥前磁器は、染付や白磁から始まり、青磁や色絵、金襴手へと飛躍的に発展し、17世紀後期にはヨーロッパ各地へ輸出されるなど、江戸時代を通して隆盛を極めます。

本展は、平成10年(1998)に実業家・山本正之氏(1920~2000)が当館へ寄贈された作品を中心に、17世紀初頭から19世紀までの肥前磁器を概観するものです。山本コレクションは、清らかな端正な寛文(1661~73)・延宝(1673~81)期の染付や、鍋島の小品など日本国内で楽しまれた器が多い点にその特徴があります。この展覧会で、江戸時代の日本人が生

活のなかで大切に伝え、扱ってきた美しい器を、堪能いただければ幸いです。

さらに当館庭園内の茶室では、現代作家の磁器作品を展覧する期間限定の特別催事を開催いたします。展覧会とあわせて「覗いたく」こと、17世紀初頭から現在に至るまで、約400年におよぶ日本磁器の多彩な魅力がお楽しみいただけます。

コレクション展

400年 染付誕生



2017年

1月7日(土)~

2月19日(日)

【休館日】毎週月曜日、

ただし1月9日(月・祝)は開館、翌10日(火)休館

根津美術館
NEZUMUSEUM



Sometsuke: Celebrating Four Centuries of Japanese Porcelain

400年 染付誕生

コレクション展

展示室1・2



そめつけちようもんりようかさ
染付蝶文稜花皿 肥前
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

重なる2枚の色紙と、草むらを舞う蝶が描かれた器。染付の顔料である呉須が濃淡をもつて発色し、全体を柔和に見せている。



そめつけりゆうすいきつかもんりようかはち
染付流水菊花文稜花鉢 肥前
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

流水に浮かぶ菊花を中央に描いた鉢。奇抜なのは内面周縁の文様で、斜めに傾いた束垣や竹、梅が細い線でダイナミックに描かれている。



そめつけさぎやばねもんさら
染付鷺矢羽根文皿 肥前
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

中央に片足で佇む一羽の白鷺、その周囲には矢羽根文が巡らされている。白鷺は肥前磁器の定番文様であり、本作はその最も早い例の一つ。



いろえからはなもんへんけいさら
色絵唐花文変形皿 肥前
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

初期鍋島に位置付けられる変形の器。上下の丸文には上絵で牡丹唐草文が描かれ、左右には染付で細密な七宝文が敷き詰められている。



そめつけゆきしばがきもんぐんばいがたさら
染付雪柴垣文軍配形皿 肥前
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

雪に覆われる柴垣を描いた軍配形の器。呉須の青と、雪にみる素地の純白さが清浄な趣を与える。文様や形が和様化する寛文期(1661〜73)の作。



いろえじゅじもんこまがたはち
色絵寿字文独楽形鉢 肥前
日本・江戸時代 17-18世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

赤絵や金彩などでふんたんに上絵を施した金襴手の優品。中央には「寿」の一字を、周囲の4つの窓には宝尺文が描かれた吉祥の器である。

ひやくちんず
展示室5 百椿図

江戸時代のはじめ、空前の椿園芸ブームのなかで制作された「百椿図」。新春恒例となった展示をお楽しみください。



ひやくちんず
百椿図 伝狩野山楽筆 2巻 紙本着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵 茂木克己氏寄贈
100種類以上もの椿を、さまざまな器物と組み合わせて描くのが「百椿図」の特徴です。現代のフラワーアレンジメントの趣です。

たてぞ
展示室6 点初め —新年を祝う—

「点初め」とはその年最初の茶会のこと。平成29年の干支「酉(鶏)」や正月にちなんだ茶道具約20件で、新年の訪れを祝います。



あからくふじまのわん
赤楽富士絵茶碗
伝覚々斎作
1口 施釉陶器
日本・江戸時代
17-18世紀
根津美術館蔵

表千家6代の覚々斎(号原叟)作と伝えられる。赤い胴部の外側に、白泥で大きく富士山が描かれた吉祥の茶碗である。



ちんしやく ともつつ たま
茶杓 共筒 銘玉ふりふり
織田有楽作
1本 竹
日本・桃山～江戸時代
16-17世紀
根津美術館蔵

銘の「玉ふりふり」とは正月遊びの振々毬杖のこと。薄作りで軽く、艶やかな姿の茶杓で、節が下方にあるのが特徴的である。

特別
催事

特別催事

事前申込不要、無料

「現代6作家による 茶室でみる現代の磁器」

当館庭園内の茶室では、期間限定で現代作家6名による磁器作品を展覧します。展覧会とあわせ17世紀から現代にいたる日本磁器の多彩な魅力をお楽しみください。



1月20日(金)
1月21日(土)
1月22日(日)



かとうつぶさ
加藤委氏

1962年生まれ
岐阜県在住。
大胆な造形の青白磁や染付・色絵で一瞬の動きをとらえる。

弘仁亭・無事庵

1月27日(金)
1月28日(土)
1月29日(日)



しょうむらひさき
庄村久喜氏

1974年生まれ、
佐賀県在住。
絹のような白磁に繊細な削りを施した「白妙磁」を制作・展開。

弘仁亭



にいさとあきお
新里明士氏

1977年生まれ、
岐阜県在住。
磁土に孔を開けた後、釉薬をかけて焼成する「光器」が代表作。

披錦斎・一樹庵

2月3日(金)
2月4日(土)
2月5日(日)



いまだようこ
今田陽子氏

1971年生まれ、
愛知県在住。
器の立体性を意識しながら、鮮やかな染付を力強く施す。

斑鳩庵・清溪亭

2月10日(金)
2月11日(土・祝)
2月12日(日)



わだあきら
和田的氏

1978年生まれ、
千葉県在住。
無釉の白磁に線一本彫ることで生まれる「陰影」の世界を追究。

閑中庵・牛部屋

2月17日(金)
2月18日(土)
2月19日(日)



重要無形文化財保持者
いまいみつまさ
十四代 今泉今右衛門氏

1962年生まれ、
佐賀県在住。
崇高な品格と雄大な風格をそなえた現代の色鍋島を確立。

弘仁亭・無事庵

その他の 関連 プログラム

特別講座

事前申込制、有料

「肥前伊万里と中国伊万里」

日時 1月14日(土) 午後2時～3時30分

講師 西田宏子 (根津美術館 顧問)

会場 根津美術館 講堂

参加費 2000円

定員 40名

※ 詳細は追ってホームページ、本催事チラシをご覧くださいか、お電話でお問合せください。

スライド
レクチャー

事前申込不要

展示内容について学芸員がスライドを用いて解説します。

1月21日(土)、2月4日(土) 下村奈穂子 (根津美術館 学芸員)

会場 根津美術館 講堂

各回とも午後1時30分より45分間程度、開始の15分前より開場。

各回定員130名(先着順)

※ 聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

開催 概要

展覧会名

コレクション展
「染付誕生400年」

主催

根津美術館

開催期間

2017年1月7日(土)～2月19日(日)

開館時間

午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]

休館日

毎週月曜日、ただし1月9日(月・祝)は開館し、翌10日(火)は休館

入館料

一般1100円(900円) 学生800円(600円)

()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料

前売券

一般900円 学生600円 ※ 2016年11月3日(木・祝)～12月18日(日)「円山応挙ー「写生」を超えてー」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売

アクセス

地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問合せ

TEL 03-3400-2536 (代表) <http://www.nezu-muse.or.jp>

次回展



重要文化財 水月観音像
朝鮮・高麗時代 至治3年(1323) 泉屋博古館蔵

特別展 **高麗仏画** ー香りたつ装飾美ー

2017年

3月4日(土)～3月31日(金)

高麗王朝を彩る仏教絵画の名品を一堂に展示。濃密、華麗な装飾表現の秘密を探ります。

リリース・広報の
お問合せ

担当：所、村岡、羽田 Tel. 03-3400-2538 (直) Fax. 03-3400-2436 E-mail. press@nezu-muse.or.jp